「中高野街道」案内板と道標・地蔵尊

西田 孝司（松原市文化財保護審議会）

▲昭和4年（1929）の子育地蔵（上田1丁目）

▲明治15年（1882）の八尾道標（阿保4丁目）

▲「中高野街道 阿保茶屋」案内板（右：表面　左：裏面）（阿保4丁目）

阿保茶屋の八尾道標（明治15）旧街道沿い子育地蔵（昭和4）

去る一月、「まつばらまちの案内人」の皆さんによって、長尾街道と中高野街道が交差する阿保茶屋交差点北東角（阿保四丁目）に「長尾街道」と彫られたケヤキ材の案内板が設置されました（「歴史ウォーク」236）。案内板が歴史街道として再認識される契機となったことから、その西側、中高野街道に面した北西角にも、「中高野街道 阿保茶屋」と彫られた案内板が設置されることになり、四月上旬に完成しました。

「長尾街道」板と同じく、伊藤孝文さん（北新町・大林寺前住職）がケヤキ材に彫られたものです。今回も太田正さんのご厚意で設置場所の提供を受けました。同地は江戸時代以降、茶屋などが建ち並ぶ阿保茶屋という地名でしたので、その歴史名称を後世に残すためにも街道名とともに表記されたのです。

中高野街道は、平野（大阪市平野区）方面から松原市域に入って、三宅や阿保・上田を経て、新堂・岡・丹南へと続き、大阪狭山・河内長野などを通って、高野山（和歌山県）に至る道の一つです。とくに、江戸時代以降、利用が増え、明治時代に入って、中高野街道と呼ばれていったようです。市域西部の天美・布忍や河合を通って高野山方面に向かう道は、下高野街道とよんでいます。

案内板が設置された北側すぐの街道沿いには、「延命子安地蔵尊」とよばれる等身大の地蔵菩薩立像が祀られています。戦後に建立されたものですが、地蔵堂の前に角柱型の道標が見られます。向かって正面（南面）に「右 八尾 信貴山」「左 平野 大阪」とあり、右側（東面）には水道栓に隠れていますが、「明治十五年九月建之」と書かれています。一八八二年のことです。

道標の建つ場所は、南から来た中高野街道から右斜折れする八尾道の分岐点にあたります。今は生活道路になっていますが、市民道夢館のある海泉池や阿保神社から、阿保五・六丁目の古い町並みを経て、三宅の東大海池と別所の今池の堤の間を通って八尾方面に至りました。

明治時代以降、中河内郡の南端に組み入れられた本市域は、中河内郡の中心であり、郡役所も置かれていた八尾との結びつきも強く、旧制八尾中学校（現八尾高校）に通う生徒も少なくありませんでした。信仰の山、信貴山（朝護孫子寺）も八尾の東方、大和国境に位置し、多くの参拝者が、この道を行き来したことでしょう。

「左 平野 大阪」とあるのは、真っすぐ中高野街道を北に進むと、平野や大阪市中に至ることを指しています。

再び、道標から南の阿保茶屋交差点に戻ると、中高野街道は直線で河内松原駅西側の踏切に向かっています。しかし、同道は大正十二年（一九二三）の大阪鉄道（現近鉄）の道明寺―大阪天王寺（現大阪阿部野橋）駅開通にあわせて整備されたものです。本来は、交差点西南角に建つ明治三九年（一九〇六）の松原村出征軍人の「日露戦役記念碑」（上田一丁目）のうしろ側（西側）を通っていました。記念碑も旧街道に沿うように今とは逆の西向きでした。旧街道は、今も残り、現新道の西側を松原幼稚園や松原小学校前を経て、浄光寺（新堂三丁目）前から岡に至っています。

記念碑の建つ場所は、ポケットパークになっていますが、南接する旧街道沿いに阿保茶屋地区の人々によって地蔵菩薩立像が祀られています。下部及び台石に「地蔵尊」「昭和四年八月廿四日」とあります。一九二九年八月二十四日の建立であることを記しています。口びるには朱が残り、胸元は両手で宝珠を捧げています。今では子育地蔵とよばれて受験にご利益があるとのことで、遠近から多くの人々がお参りにこられています。

古くからの街道筋であった阿保茶屋には仏堂があり、「元禄八年九月七日松原ノ内阿保茶屋村」と銘記された鰐口が遺存しています（「歴史ウォーク」127）。同品は近くの上田五丁目の反正山地蔵堂に移されていますが、元禄八年（一六九五）という江戸時代前期の作品として、貴重なものです。